

千代田区景観まちづくり重要物件

9-7

## 遊就館

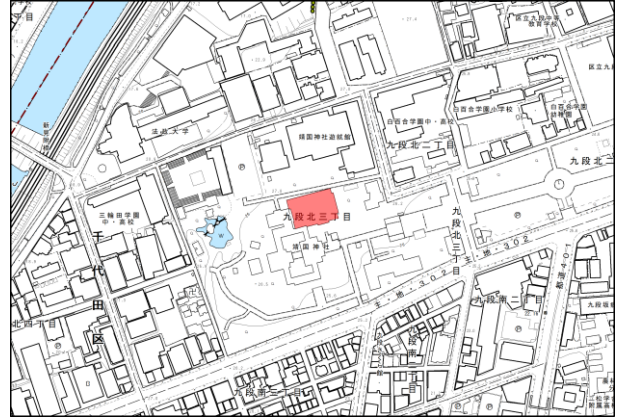
指定日 2003（平成 15）年 6 月 9 日

所在地 九段北三丁目 1 番 2 号

設計者 伊藤忠太、内藤太郎、柳井平八

竣工 1931（昭和 6）年

文化財等  
指定状況



▲遊就館

## 歴史・文化的特徴

遊就館は、国防思想の普及のため、旧日本陸海軍の武器陳列所として靖国神社内に建てられました。戊辰戦争から太平洋戦争に至るまでの戦没者の遺品や絵画、兵器などが展示されています。関東大震災で壊れた初代の遊就館は、イタリア人のカペレッティの設計によって1881（明治14）年に造られており、明治初期の名建築として知られていました。現代の建物は二代目にあたります。2002（平成14）年に改修、増築工事が施され、リニューアルオープンしました。

## 意匠・構造の特徴

設計顧問の伊藤忠太は、日本及び東洋建築史学の開拓者でもありました。彼の理念に基づき、RC造で、新しい和風の意匠が展開されています。単に洋風建築に日本建築の屋根を載せた「帝冠様式」とは異なり、伝統的な木造寺社の形を崩しても全体の調和をはかる和洋折衷で、「近代東洋式」と言います。

銅板葺きの緑の屋根、白い花崗岩貼りの1階外壁、黄土色のリシン塗り粗面仕上げの2階外壁と、独特の色合いが用いられています。意匠は基本的に和風ですが、細部に鬼の彫り物など東洋的な意匠が盛り込まれています。

## 周辺景観との関係

靖国神社境内にあり、他の和風建築と調和しています。

緑豊かな中に立地しており、柔らかな色合いの外観が、周辺の緑と共に調和ある景観を形成しています。建物はボリュームがあるので、緑に見え隠れしながらも、はっきりと識別が可能です。